

漁港の就労環境の総合的評価

水産土木工学部

研究の背景・目的

1. 漁港では「陸揚げ・積み込み」、「仕分け・運搬」および「漁具手入れ・整理」の作業が行われる
2. 就労環境の総合的な把握、評価がなされていない

研究成果

1. 漁港における就労環境要素(温度、照度等)の計測と評価
2. 作業姿勢に基づく身体負荷の評価
3. 漁港における就労環境の総合評価

波及効果

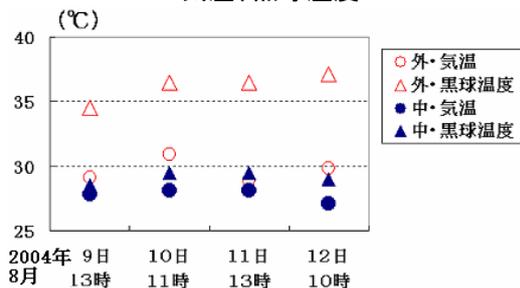
1. 漁港における作業の実態に即した改善技術の開発
2. 作業の安全性、快適性および利便性の向上

<漁具手入れ作業時の暑さの不快感の評価>

<仕分け作業時の作業姿勢の評価>



気温、黒球温度



PPD(予測不満足率)※

日時	小屋の中	小屋の外
2004.8.9 13時	38%	99%
8.10 11時	60%	≒100%
8.11 13時	40%	≒100%
8.12 10時	42%	≒100%

※PPD (Predicted Percentage of dissatisfied): 寒暑に不満足を感じる人の割合の予測。ファンガーによる

作業形態	魚を入れる容器が	
	床上のトロ箱	タルの上のカゴ
例		
つらさ評価指数※による	多く現れた作業姿勢のタイプ	
	タイプ「5」 83.1%	タイプ「4」 50.5%
	タイプ「8」 11.3%	タイプ「6」 21.1%
平均つらさ指数	5.15	4.44

※つらさ指数法: 作業姿勢の評価法。長町らによる

(漁港施設研究室 佐伯公康)